

磯田道史の

ちよこつと

家康み

第7話



おおくぼひこぎえもん
大久保彦左衛門との回想

三方ヶ原の戦いするとき、家康公はどんな姿をしていたのでしようか。18世紀中頃の「大三河志」には「敵兵公を窺ふ、公の鎧は朱色なり」とあり、朱色の鎧を着ていたとされます。十分にありえる話です。

なぜなら家康公の元服儀礼に使われた鎧が静岡浅間神社に残っていますが、それも紅糸で装飾した赤系の鎧です。三方ヶ原の戦いでも赤い鎧を着用していたものと思われまふ。家康公は、後年、目立たない色の鎧を好みますが、若いころは派手な赤色をした室町時代の形式の古めかしい鎧を着用していたようです。

江戸中期の書物「士談会稿」のなかに、家康公と大久保彦左衛門が三方ヶ原の敗走について具体的に述べた箇所があります。家康公は語りまふ。「信玄は三方ばかり。自

軍は一万ほど兵力が不足し、合戦が暮れて小雨が降り出した「秘蔵の鬼葦毛」という馬に乗って逃げた「中地道」にシタシタと浜松に乗り出し、武田に食いつかれ、難儀はしたけれど、本多忠勝が敵味方の中を乗り回し、味方をよくまとめ、引き上げた」と。

現在「中地道」の位置は不明ですが、本多忠勝が通ったルートなので、浜松城に連なる台地の上でしょう。「シタシタ」とは「ゆっくり確実に」といった意味で、落ち着いた様を表しています。

家康公は続けて「彦左衛門も達者に走り回ったな」と話しかけました。が、彦左衛門は仏頂面のまま返事もしません。いぶかしげに「やれ、彦左。寝てしまったのか」と聞きまふ。

ところが、彦左衛門は家康公に反論。「寝たのではありまふせん。殿があまりに大嘘を仰せられるから

です。「家康様の逃げ足は一番早く、元目口に乗り込んだ時には、拙者は三四町も後方におりました。お逃げになつたのは中地道ではないですよ。何が『シタシタと』ですか」と皮肉っぽく言い返しました。

譜代の彦左衛門は、家康公のために命も捨てる忠実な家臣です。でも、家康公が事実と違うことを言えば、きちんと主人に反論しました。家康公は、彦左衛門の言葉に顔を赤らめながら「それほど速かつたか。中地道かなと思つたんだが」と笑つてごまかしたそうです。三方ヶ原の敗走は、ぶざまなものでした。天下人となつた時、恥ずかしくて「ワシは整然と撤退した」と嘘をついてみたくも少しれまふせん。家康公にはそういう可愛いところがありました。

【次号予告】
「空城の計」を検証



徳川家康公顕彰四百年記念事業 関連イベント 事務局：広聴広報課

第3回「家康公検定」の問題募集

テーマ 「家康公の生涯」～家康公の志と天下泰平の国づくり～
検定日：9月13日(日)(予定)
申込 応募用紙を直接または郵送、ファクスで広聴広報課(〒430-8652 中区元城町103-2)へ【4月30日(木)必着】
問合せ 広聴広報課 ☎457-2293 FAX457-2028
※応募用紙は、広聴広報課、区役所区振興課、図書館、協働センターにあります。また、市ホームページからもダウンロードできます。

家康楽市in浜松出世城2015春の陣

出世の力を持つ浜松/パワーフードと、家康公ゆかりの地の人気グルメが大集合。全国からゆるキャラ® も駆けつけ、子どもたちによる「徳川軍対武田軍の城落とし」などがイベントを盛り上げまふ。
日時 4月25日(土)・26日(日) 午前9時～午後4時
場所 浜松公園
問合せ 家康楽市実行委員会 ☎450-7278

